

平成31年度 学校評価書

常葉大学附属こは幼稚園

園長 八木 いくみ

1 経営の重点にかかわること

学校教育目標 心豊かでたくましい子

重点目標 安心して人とかかわり、自ら遊びを楽しむ

学年	評価項目（各学年の指導・取組の重点等）	自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
0 歳 児	<p>○生活リズムを大切に、安心感の中で過ごす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭等に欲求や思いを受け止めてもらいかわる中で愛着関係を築く。 ・衛生的で安全な環境の中で、のびのびと過ごす。 ・見の周りの事に興味や好奇心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人にあわせ、思いを受け止めてかわるよう、担当保育教諭と協力してきた。園児それぞれの成長を離し、試したり見守ったりと、試行錯誤しながらも安心して過ごせるようにした。 ・愛着関係が築け、関心が広がっているが個人差は大きい。 ・おもちゃの安全や衛生に気を付けていったこともあり、伸び伸びと遊ぶ姿が多かった。ただ、まだ環境については考慮が必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児の環境に関する一層の考慮を望むが、全体として経験を積みつつあると感じる。 ・園児が未熟なことから、病気や事故を防ぐためにも、1対1のかかわりがとても重要だと伝わってきた。 	B
1 歳 児	<p>○自分の好きな遊びを見つけ、その遊びを繰り返し楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる環境の中で、のびのびと遊ぶ。 ・様々な生活の場の中で見る・触れる・真似る等の経験をし、人や物への関心を広げる。 ・安定した環境の中で身の回りの事に興味を持ち少しずつ自分でやってみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児にとって適した環境は？職員でその都度話し合うように進めてきた。元々の幼稚園の構造が3歳児以上に適した構造なので、悩むことは多い。 ・手指を使う制作やおもちゃを取り入れたり、園外散歩を増やしたり、様々な経験ができるよう工夫した。 ・園児一人一人の気持ちに寄り添い、成長や発達段階に合った援助を心掛けてきたが、まだ不十分な点もある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価にある課題をそれぞれピックアップすることで、個々に合った援助につながるのではないかな。 全体としては経験を積みつつあると感じる。 	B
2 歳 児	<p>○生活の流れを理解し、安心して過ごす中で保育教諭や友達と遊びを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活の安定を図りながら、身支度や遊び等やってみようとする気持ちを大切にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入園となる子もいたため、新しい生活環境と人間関係において、一人一人丁寧に見ていく。生活チェック表を作成し、生活のリズムを細かくつかめるように工夫した。 ・身支度は自分でも少しずつ行えるよう、家庭でも協力していただく。3学期には全て自分 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの生活の安定を図りながら、成長助成に努めていると感じる。 ・評価項目の「生活の流れを理解 	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭や友達との関わりの中で一緒に過ごす心地よさを感じる。 ・好きな遊びを見つけてのびのびと楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・で行えるよう移行していった。 ・子どもの好きな遊びを見つけられるよう、遊びを一緒に楽しんでいった。 		し」とあるが、一般的な2歳児の思考力や認知力といった面で、かなりの個人差があり、それらはこれから発達すると感じるので、評価としては全員がクリアできるような目標なのか、保護者から見たら評価項目が高いように感じた。	
満3歳児	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して園生活を送る ・保育教諭や友達とかかわり合いながら、安心感をもって生活する。 ・簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。 ・好きな遊びを見つけて、保育教諭や友達とのびのびと楽しんで遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月より順次入園ということもあり、園生活が落ち着くまで個人差が大きい。が、2学期末には、不安がることなく楽しく生活していた。 ・自分でできることが増え、それが楽しく、すすんで身支度や着替えをする姿が多く見られた。片づけについても楽しくできるよう、声掛けの工夫をした。 ・友達への意識が増し、2学期後半では、友達と遊ぶ子が増えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・順次入園のため、それぞれが落ち着くまで個人差も大きいと思う。先生方の苦勞が思い浮かぶ。 ・子どもの園生活の安定を図りながら成長助成に努めていると感じる。 	A
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> ○保育教諭や友達と一緒に楽しく園生活を送る ・保育教諭や友達と触れ合いながら、安心して生活する。 ・安心できる場所や好きな遊びを見つけて楽しく遊ぶ。 ・集団生活に必要な約束や習慣を知り自分で行おうとする。 (挨拶・身支度・食事・排泄・着替え等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境も違い、個人差が大きく、また、気になる子どもも多く、個々への丁寧なかかわりを大切にしてきた。 ・補助教諭と協力して保育を進めていくことが、子ども達が安心して生活することに繋がった。 ・クラス単位でなく、学年で保育するという意識が子どもの成長に繋がったと感じる。 	A	<p>【3～5歳児共通の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの園生活の安定を図りながら成長助成に努めていると感じる。 ・クラス単位でなく、学年全体で先生方に見守られている感じがとても良い。「あれしなさい」「これしなさい」ではなく、子ども自身が遊びを選んで自分自身で考えて取り組み、その行動が自発や 	A
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と夢中になって遊ぶ ・いろいろな遊びに興味をもち、発見を楽しんだり、考えたりして生活に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の主体的な遊びが始まりやすい工夫ができた。 ・一年間栽培を通し、子ども達が積極的にそれらと関わろうとする姿が見られた。また、子どもの成長や、経験を見ながら、遊びの展開を予 	A		

	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に興味を持ち保育者や友達との関わりを広める。 ・豊かな遊びや生活の経験を通して必要な言葉を身につけ、色々な方法で表現することを楽しむ。 	<p>測し、新しい教材等を準備するなど配慮していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えあい、見せ合いなど、表現方法においても友達同士の経験をたくさん積めるよう配慮した。 ・個別対応の必要な子どもへの関わり、配慮に置いて難しい点があるが、試行錯誤しながら関わるようにした。 		<p>要求につながっていたと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～5 歳児ではさらに成長過程で個人差が広がるので、個に合わせたケアも大切だと感じるが、毎回ながら先生方が支えてくれ、保護者の方々も安心して預けられると思う。 	A
5 歳児	<p>○遊びを通して協同性を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合ったり、協力したり、工夫したりして、最後までやり遂げようとする気持ちを持つ。 ・自分達で遊びや生活を進める、就学に向けて自覚や自信を持って生活を進める。 ・友達の気持ちを分かろうとし、思いやりの気持ちを持つ。 ・自然や環境への興味を深め、その理由や意味を探っていく ・気持ちを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に作り上げたり、協働性を必要とする遊びを継続的に楽しんでいけるよう、時間や環境を整えていく努力をしてきた。その中で、個々の考えや意欲が生かされ育っていくことを感じる事ができた。 ・帰りのひとときにサークルタイムを設定し、子ども達が様々な思いや経験を伝え合うことで、友達への関心も広がり、交友関係が広がっていった。 ・行事を通して、クラスの友達と協力し、一つの目標に向かうことで、最後までやり抜こうとする気持ちも育っていった。3 学期には、友達同士で支え合い、励まし合う場面も多くみられるようになった。 	A		A

2 各指導部等にかかわること

	評価項目（各指導部等のねらい・取組等）	自己評価		学校関係者評価委員会の評価	
1 安全・ 保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急時の避難訓練を定期的実施し、子どもの安全確保に努める。 ○家庭との保険に関する情報交換を綿密にする事や、流行性の疾病情報の開示を随時行なう。 ○食物アレルギー等、子ども一人一人に配慮した保健指導を行なう。 ○定期的に遊具の点検と、園庭の安全管理を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の毎月の実施時に真剣に取り組むことで、未満児でも徐々に慣れてきている。今年度は新たに、非常時対応のシミュレーションや洪水訓練も実施。意義ある取り組みだった。 ・0、1歳児は、食物摂取について、調理員、保護者との連携を取ったことで、給食でのヒヤリハットもなく、スムーズであった。継続したい。流行っている疾病についてもメール配信等で、保護者に周知し、健康管理の意識向上につながった。コロナウイルス対策についても、迅速な対応を心掛けた。 ・園庭安全管理に加え、衛生管理も全員で行うことができている。但し、職員だけでは限界があるので、専門業者に介入してもらおうなど、検討は必要に思う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の安全管理及び、衛生管理は、今後保護者の関心もさらに高くなると思われる。課題を共有し、一層の改善に努めることを望む。 	B
2 運営組織	<ul style="list-style-type: none"> ○報・連・相を適宜行い、幼児教育は「組織的・計画的に」を合言葉に、円滑な運営に努める。 ○限られた時間を有意義に使い、常勤非常勤が情報共有することで相互理解に繋げる。 ○教職員相互の信頼関係を大切にすることで、結果的にスムーズな運営に繋がるよう、一人一人が意識できる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日朝礼、夕礼を実施。必要事項は伝達し、共有している。時間帯の違う職員には、ホワイトボードの利用や、遅番メモなど、伝達方法は工夫しているが、よりきめ細やかさが必要か。 ・園児の午睡時間にお互いで情報共有を心掛けている。 ・常勤からはこまめに伝えているが、非常勤のアイデアや気づきについて、もっと挙げられる環境が今後は必要に思う。 ・幼児教育は組織的、計画的でなければならないが、職員が常に一堂に会することが難しい中、園としてより具体的に何が大きな柱か度々打ち出す必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の連携に留意している点を評価する。課題として挙げた点の改善を望む。 	B

3 研 修	<p>○園内研修「遊びが生まれる瞬間を見取る」を通して、子ども理解を深め、共通理解を図る。</p> <p>○より良い「こども園」を目指して、合同研修や、8月の実践学会口頭発表に向けて、振り返りをしながら両園で情報交換をする。</p> <p>○スキルアップとなる外部研修に参加し、保育の質の向上に繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修は写真や付箋を用いたり、ある程度の工夫をして取り組んでいるが、例えば、大学教員に年間通して、来園してもらい、より質の高い保育について考えていけるような方法など考えたい。 ・幼児教育実践学会の口頭発表は、短大と一緒に取り組む、全国各園の取り組み状況を共有するなど、今後の保育実践に繋がる内容となった。 ・外部研修参加については、こども園となり、保育がある日はなかなか難しい。各自のスキルアップの為なので、平日以外でも開催される研修を、引き続き案内できるようにしたい。また、参加した場合、それを園全体でも共有できるよう意識したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修参加に課題があると評価している。研修活動を一層進めることを期待したい。 	B
4 家 庭 ・ 地 域 と の 連 携	<p>○各家庭に保育の取り組みをわかりやすく伝え、理解に繋げ、信頼関係を築く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事に関して、どのような意義、意図があるのか、保護者理解につなげられるようにする。 ・行事や参観会の際には、日々の子どもの遊びが今後どのような育ちとして関わってくるのか、保護者にわかりやすく伝える。 ・個人面談等を利用し、保護者からの相談を丁寧に受ける。 ・気になる子に対して、特別支援コーディネーターを中心に面談を行ったり相談機関を紹介し、園と保護者と一緒になって関わり方を考えられるようにする。 <p>○「とことこクラブ」を開催し、未就園児が親子で楽しいひと時を味わえる様、各回共に工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お迎えにくる保護者にその日の保育でのエピソードを伝えたり、特に未満児クラスは、ドキュメンテーションを作成し、保育への理解につなげられた。ブログ、写真掲示も実施した。連絡帳も活用した。 ・園見学者に、実際の保育の様子を見ていただく際、目の前の園児の姿を説明しながら、とこはの保育方針を伝えることができ、入園を希望してくださる方への保育理解につなげることができた。 ・今年度より特別支援コーディネーターを設定。一年目ということで手探りであった。一歩踏み出せたことが大きい。次年度はもうすこしきめ細やかな対応ができるよう、ケース会議を定期化するなど、取り組みの工夫をしたい。また、臨床心理士を交えながら子どもの特性把握と対応について保護者と共有するように努めていった。 ・入園前面談を含め、とことこ参加が条件という入園手続き方法は、園側からも子どもや親子の様子が見え、その後の声掛けにもつながった。とことこへの参加率もアップすることで、幼稚園の良さを知ってもらえるチャンスとなった。 ・とことこクラブの各回の内容は参加者が楽しめるよう、工夫はなされていた。参加者の声も拾うことを意識できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携に努力している姿が見える。 地域と共にあるところは幼稚園であることをさらに推進してほしい。 	A

<p>5 常葉 大学 内連 携</p>	<p>○たちばな幼稚園との研修や交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同研修を行ない、子ども理解を深める。 ・8月の実践学会口頭発表について進める。 ・子ども同士の交流会（3歳児以上、年2回） <p>○中学・高校・短期大学部・大学の実習生受け入れやパイプ強化。</p> <p>○短期大学部との共同研究。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践学会口頭発表について、短大と一緒に研究し、準備を進める。 <p>○他学校施設の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児同士の交流は今後も続けたい。 ・合同研修は、安心安全という、共通のテーマで進められた。また、実際に不審者対応も体験でき実践的であった。 ・実習生の受け入れは事前のオリエンテーションが大事。園の方針を理解しての実習か否かで内容が全く変わってくる。 ・短大、大学との共同研究は、実践学会での口頭発表について合同で進めるという部分で終わってしまった。継続が難しいが、学生が学んでいる最新の保育理論と、園での実践部分をお互いが深められるような定期的な勉強会、意見交換会などを設定したい。 ・橘高校の和敬庵をお茶ごっこで使用。本格的な雰囲気味わうことができた。 	<p style="text-align: center;">B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たちばな幼稚園との研修だけでなく、園児交流を実施していることを評価する。 ・大学、短大との交流、研修についてはより一層の発展を望む。学部の立場からも、交流を進めたいと考える。 ・和敬庵での5歳児お茶ごっこは経験として良いと思うが、最後の参観会ではなく、違う機会でもよいかと感じる。 	<p style="text-align: center;">B</p>
-------------------------------------	---	--	---	---	---

*A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取組が不十分である